

教科 科目名	情報科	学年・科目群	1学年・必修	① 情報と社会の関わり、② プログラミングの知識と技法、③ プレゼンテーションなどの発表手段、④ 情報に関わる法律など、高度情報化社会における行き方について、学んでいきます。情報を活用して【未来を見通す力】【他者を思いやる心】【探究する力】を身に付けていきます。
	情報Ⅰ	単位数(年間授業時数)	2単位(70時間)	

学習目標 ～科目で身に付けられる「ちから」～			情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。
三つの柱	(1)	知識及び技能	
	(2)	思考力・判断力・表現力等	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
	(3)	学びに向かう力、人間性等	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。
教科書 教材 ポイント	【教科書】数研出版『高等学校 情報Ⅰ』 サポートノート 【副教材等】数研出版『高等学校 情報Ⅰ』サポートノート 東京書籍『Python入門 プログラミングの基礎から応用まで』		
学習評価	(1) 授業での決まり事について遵守し、適切な授業態度で取り組むこと。 (2) 基本的にタブレットを持参していることを前提としているため、充電やタブレットそのものの管理は自己責任で行うこと。 (3) 授業に関する教科書等を忘れた場合は、朝までに必ず申し出ること。授業直前などは対応不可。 (4) Googleアカウントを常に活用するため、IDとパスワードは忘れないようにすると共に、漏えいしないよう十分に注意する。		
	評価の観点		
	a	知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。
	b	思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。
	c	主体的に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

学期	月	単元名	学習内容	このように学ぶことで...	こんな力が身に付きます	評価の方法	時数
前期	4	オリエンテーション ～授業を受けるにあたって～	「情報Ⅰ」の授業を受けるにあたっての説明と注意事項の説明を行う。	・授業を受ける適切な態度で学習に取り組む。	未来を見通す力	知 自己紹介シートの提出 思 自己紹介シートの提出 態 授業の様子	1
	4・5・6	第1編 ～情報社会の問題解決～	第1章 情報とメディア 第2章 情報社会における法とセキュリティ 第3章 情報技術が社会に及ぼす影響	・情報そのものの特性と、それを表現するメディアの特性について理解し、それに付随する法についても学ぶ。 ・セキュリティの観点から情報の取り扱いについての留意点を学び、情報社会での心構えを身に付ける。 ・高度に情報化された社会が具体的にどう情報化しているのかを理解し、ICTやIoTといった情報の概念と向き合っていく知識と判断力を身に付ける。	未来を見通す力	知 単元テスト 思 提出物 サポートノート 態 デジタルノート 授業の様子	15
	7・8・9	第2編 ～コミュニケーションと情報デザイン～	第1章 情報のデジタル表現 第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴 第3章 情報デザイン 第4章 プレゼンテーション	・情報のデジタル表現について、コンピュータ内部で処理している方法とその仕組みについて学ぶ。 ・通信の歴史と技術の発展、マスメディアなどのコミュニケーション手法について学び、目的に応じて選択する判断力を身に付ける。 ・情報を伝える際に考える、伝わりやすい情報伝達の理論や手法を学ぶ、伝わりやすい表現を学ぶことで、表現力と他者を思いやる心を身に付ける。 ・プレゼンテーションの技法を学び、実践することで、他者に伝わりやすい発表とは何かを考え、総合的な探究の時間でも生かせるように、技能、思考力・判断力・表現力を身に付ける。	他者を思いやる心	知 単元テスト 思 発表 サポートノート 態 デジタルノート 授業の様子	15
	10・11・12	第4編 ～情報通信ネットワークとデータの活用～	第1章 ネットワークのしくみ 第2章 データベース 第3章 データの分析	・ネットワークの仕組みと暗号化手法を学び、ネットワークのセキュリティを意識する心構えを身に付ける。 ・データを収集、整理、分析するプロセスを学ぶ。データの特性を理解し、分析手法や表現方法を適切に選択できるよう、判断力を身に付ける。 ・分析手法としては、回帰分析など、数学と関連付けて学ぶ。データを用いた予測を行えることを理解する。 ・機械学習や人工知能などの技術にもつながり、データが価値を生み出すものであることを理解する。	探究する力	知 単元テスト 思 提出物 サポートノート 態 デジタルノート 授業の様子	13
	12・1・2	第3編 ～コンピュータとプログラミング～	第1章 コンピュータのしくみ 第2章 プログラミング 第3章 モデル化とシミュレーション	・コンピュータの五大機能をもとに、ハードウェアの構成について学ぶ。 ・ソフトウェアの分類や浮動小数点数など、コンピュータ内部についても学ぶ。 ・プログラミングを実践に行い、プログラミングの基本構造を学び、プログラミング的思考を身に付ける。 ・問題解決のための手法として、モデル化とシミュレーションを学ぶ。問題解決の場面で、適切な手法を選択し、問題解決を図る力を身に付ける。	創造する力	知 単元テスト 思 提出物 サポートノート 態 デジタルノート 授業の様子	18
	2	プログラミング ～ぶよぶよプログラミング～	Monaca educationを使い、ぶよぶよをつくり出す。その過程を通じて、プログラマーやシステムエンジニアの仕事がどういったものなのかを学ぶ。	・実際にプログラマーがどのようにプログラミングを行い、「ぶよぶよ」を作っているのか、そのプロセスを実践的に学ぶ。	継続して挑戦する力	知 完成データの提出 思 完成データの提出 態 授業の様子	4
後期	3	表計算ソフト ～Excel～	Excelの基本的な機能と関数について学び、ビジネスの現場で使えるスキルを学ぶ。全商情報処理検定の3級の内容で来年度情報処理を受講予定の生徒は2級へのつなぎとして重要な内容です。	・個々でコンピュータを一斉に操作し、適切に指示に従う。 ・将来のビジネスの現場を想定し、実務に取り組む態度で受講する。	創造する力	知 完成データの提出 思 完成データの提出 態 授業の様子	4
							70

教科 模 断	単元 関 連	第4編 ～情報通信ネットワークとデータの活用～	データの収集や分析、出力について学び、総合的な探究の時間でのアンケート調査や、その分析に生かせるスキルを身に付ける。
		総合的な探究の時間	